

タイムテスト (3)	物語文 4			説明文 2			タイムテスト (2)	詩	物語文 3		
	19 天使で大地はいっぱいだ(3)	18 天使で大地はいっぱいだ(2)	17 天使で大地はいっぱいだ(1)	16 古事の森(3)	15 古事の森(2)	14 古事の森(1)		13 奈々子に	12 ぼくらの山の学校(3)	11 ぼくらの山の学校(2)	10 ぼくらの山の学校(1)
	◆文の組み立て②	◆文の組み立て①	▲表現に注意して	◆送りがな	◆かなづかい	▲文章の構成		▲詩の種類・詩の表現	◆同訓異字	◆同音異義語	▲心情をとらえる
85 ・ 86	81 ～ 84	77 ～ 80	73 ～ 76	69 ～ 72	65 ～ 68	61 ～ 64	59 ・ 60	55 ～ 58	51 ～ 54	47 ～ 50	43 ～ 46
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

タイムテスト (1)	物語文 2			説明文 1			物語文 1			タイトル
	9 友だちじゃないか(3)	8 友だちじゃないか(2)	7 友だちじゃないか(1)	6 友だちいないと不安だ症候群につける薬(3)	5 友だちいないと不安だ症候群につける薬(2)	4 友だちいないと不安だ症候群につける薬(1)	3 鳥海山の空の上から(3)	2 鳥海山の空の上から(2)	1 鳥海山の空の上から(1)	
	◆多義語	◆ことばの組み立て	▲登場人物をとらえる	◆慣用句	◆ことわざ	▲段落の要旨	◆漢字の部首	◆漢字の成り立ち	▲情景をとらえる	▲ねらい ◆ことば・コトバ・言葉
41 ・ 42	37 ～ 40	33 ～ 36	29 ～ 32	25 ～ 28	21 ～ 24	17 ～ 20	13 ～ 16	9 ～ 12	5 ～ 8	ページ
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	月/日
										ページ
										宿題
										チェック欄
										チェック ノート



第1回

物語文1

鳥海山の空の上から (1)



ねらい

◆情景をとらえる

物語では、さまざまなできごとが起こりながら、話が進みます。そのできごとの一つ一つのまとまりを「場面」といいます。また場面中において、景色や様子に登場人物の心情が表れていることがあります。それを「情景」といいます。

- (1) ときをとらえる。
「朝」「夏」など、時間や季節を直接に表した表現だけでなく「ねる」「まっくら」(夜であることがわかる)など、ときがわかることばにも注意してとらえましょう。
- (2) 場所をとらえる。
「ときをとらえる」ときと同じように、場所を直接に表した表現だけでなく、風景や登場人物の会話や行動、様子にも注意してとらえましょう。
- (3) できごとをとらえる。
状況ようを説明した文や登場人物の行動などから、どんなできごとについてえがかれた場面であるかをとらえましょう。
- (4) 風景がくわしくえがかれているところをとらえる。
くわしい情景描写がされているところに注目して、場面の様子をとらえましょう。
- (5) 登場人物の心情が表れた風景や様子をとらえる。
風景や様子と登場人物の心情とのつながりをとらえましょう。

漢字を書こう。

質	喜	紀	情	状	再	構	現
貝 15	口 12	糸 9	忄 11	犬 7	冂 6	木 14	王 11
シツ チ*	キ よろこぶ	キ	ジョウ セイ* なさけ	ジョウ	サイ ふたたび	コウ かまえる かまう	ゲン あらわれる あらわす
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
先生にシツモンする。	試験に合格しヨロコぶ。	キコウ文を書く。	ヒョウジョウが明るい。	ビョウジョウを聞く。	友達とサイカイする。	試験のココロがマエ。	ゲンキンではらう。

5年の総合	長文(2) 吉村作治の古代エジプト不思議物語	説明文 4			物語文 5			説明文 3			
		28 いのちのギフト(3)	27 いのちのギフト(2)	26 いのちのギフト(1)	25 南小、フォーエバー(3)	24 南小、フォーエバー(2)	23 南小、フォーエバー(1)	22 命はどのようにして生まれたの?(3)	21 命はどのようにして生まれたの?(2)	20 命はどのようにして生まれたの?(1)	
タイムテスト(5)	長文(1) 青空の七人	◆敬語②	◆敬語①	★要旨をとらえる	◆二字熟語の組み立て② ・三字熟語の組み立て	◆二字熟語の組み立て①	★主題をとらえる	◆類義語の使い分け	◆類義語・対義語	★正確な読み	
		121 124	117 120	113 116	111 112	107 110	103 106	99 102	95 98	91 94	87 90
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

文章たんけん

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

翔太は、祖父の姉である波江おばさんの家へ一人で寝台列車(ベッドがついて車内で寝られる列車)で向かうことになった。

五郎おじさんから電話がかかってきたのは、五時過ぎだった。

おじさんは、まえおきも何もなく、いきなり用件をいった。

「今晚八時に家を出るから、荷物全部そろえとけよ。そして、今日翔太は列車に泊まるんだから、出発前に風呂でもシャワーでもいいから浴びておけ」

「うん」

返事したのと同時に、電話は切れた。

それまでゆっくりと進んでいた時間が、急に早まわして動き始めた。

荷物は、昨日つめこんだまま。ほんとうに秋田になんて行くかな、と思っていたので、いいかげんにそろえただけだ。

でも、おばあさんがたった一人で住んでいるところに泊まるのだ。

何か足りないものがあつたつて、借りるってわけにはいかない。

翔太は、昨日は見もしなかった林間学校のしおりを引っぱりだしてきた。

洗面具は、あぶなく忘れるところだった。パジャマは、洋服で寝ればいいやと思つてたけど、持つていくことにした。

ウィンドブレーカーと長ズボン(ジャージ)は、林間学校では山登りにいったので、持ち物の欄に書いてある。それも荷物に加えたのは、三波姉さんのすすめにしたがつて、鳥海山に登ろうなどと思つたわけではない。社会科で秋田は豪雪地帯だと教わつたからだ。今は夏だけど、ひよつとして寒いかもしれない。

母さんから渡されたデジカメとノート。それにマンガを入れたら、

かなりリュックがふくれた。熱中症にならないために、帽子をかぶつていくことにして、リュックの上に置いた。

翔太は汗だくになって荷物をそろえると、お弁当の残り半分を食べ、シャワーを浴びた。

五郎おじさんがかけこんできたのは、ちょうどその時だった。

「お帰りなさい」

「悪い。悪い。おそくなつて。五分でシャワー浴びて着がえるから、あとちょっと待ってろ」

そして、八時ちょうど、五郎おじさんと翔太は、いっしょに家を出た。

「寝台のチケットをとるのに、すごいならんでさ。おそくなつちやつたんだ」

五郎おじさんはそういつて、切符をくれた。

翔太はそれをなくさないように、ウェストバッグにしまった。なんだった、大事なものはウェストバッグの中だ。

「五郎おじさん、おなかすいたでしょ。ぼくが一人で上野駅まで行けば、ついてきてもらわなくてよかつたんだけど」

「上野駅でうまいもん食うから、気にするな。そんなことより、羽後本荘から矢島までの行き方を書いといた。そこだけは、翔太が一人で行かなきゃならないから、ちゃんと自分で由利高原鉄道の切符を買つて乗るんだぞ。わからなかつたら、駅員さんに聞けばいいから」

翔太はウェストバッグにしまう前に、ひととおり読んでみた。メモをなくしたり、すぐに見つからなくても、頭の中に入れてしまえば、安心だ。

そして、今回みたいな緊急時、いちいち姉さんたちや五郎おじさんに頼らなくては、一人で列車にも乗れないんじゃないかと思ひ、上野駅までの行き方を覚えることにした。(三輪裕子『鳥海山の空の上から』)

*1鳥海山は秋田と山形の県境にある火山。

問一

線①「おじさんは、まえおきも何もなく、いきなり用件をいった」とありますが、この様子からどんなことがわかりますか。もっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 少しとまどっていること。

イ やる気を失っていること。

ウ 落ち着きはらっていること。

エ たいへん急いでいること。

問二

線②「今晚八時に家を出るから、荷物全部そろえとけよ」について、次の(1)〜(3)に答えなさい。

(1) おじさんにこのように言われて、翔太が予定の時間までに用意をまにあわせようと急ぐ気持ちに切りかわつたことが、翔太の描写以外からわかる表現を、文中から一文でさがし、その初めの五字を書きなさい。

□□□□□

(2) 翔太が荷物をそろえるのに参考にしたのは、何ですか。次の□□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

□□□□□の

(3) 翔太がリュックに入れた荷物は何ですか。文中からすべて書きぬきなさい。

□□□□□

問三

線③「今は夏」とありますが、この場面の季節がわかる部分を文中から二十一字でさがし、その初めと終わりの四字を書きなさい。

□□□□□

問四

線④「メモ」には何が書かれていますか。文中から十四字で書きぬきなさい。

□□□□□

問五

「翔太」について述べたものとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 家族に反発して、言いつけを守らない。

イ 自分からは進んで行動しようとしていない。

ウ 人に対して優しく、気づかいができる。

エ 周りの人たちの意見にながされやすい。

問六

この場面は、一日のうちのいつごろのできごとが描かれていますか。時刻を表すことばを使って、十五字以内で書きなさい。

□□□□□

タイムマシンに乗って

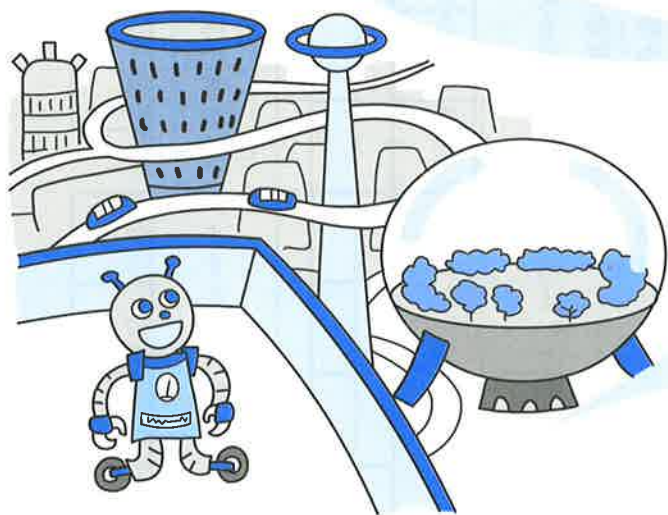
二字の熟語を作りながら、時空を旅しよう。たどり着いたのは、過去と未来のどちらかな？



過去へようこそ!



未来へようこそ!



物語文1

鳥海山の空の上から (2)

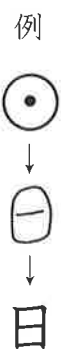
ことば・ことば・言葉

漢字の成り立ち

漢字は、今から三千年以上前、中国で生まれました。ものの形をかたどった絵文字がもとになっていますが、しだいにいろいろくふうされて、新しい漢字が作られていきました。

漢字の成り立ちには、次の四つがあります。

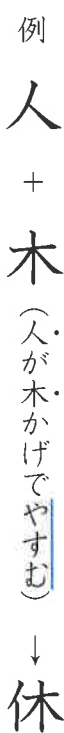
- (1) 象形文字
ものの形をかたどって作った文字。



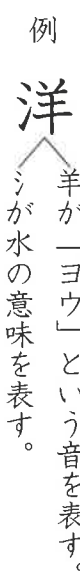
- (2) 指事文字
形のないことから、点や線の記号で表した文字。



- (3) 会意文字
漢字を組み合わせて、別の意味を表した文字。



- (4) 形声文字
漢字の部分の一方が意味を、他方が音を表す文字。



漢字を書こう。

迷	豊	備	測	在	容	増	授
ミ	ト	イ	シ	土	宀	土	イ
9	13	12	12	6	10	14	11
メイ*	ホウ	ビ	ソク	ザイ	ヨウ	ゾウ	ジュ
まよう	ゆたか	そなえる	はかる	ある		ふます	さすける*
		そなわる				ふやえる	さすかる*

(1) ジュギョウを受ける。

(2) 人口がゾウカする。

(3) 料理をヨウキに入れる。

(4) 二時ゲンザイの気温。

(5) 体力をソクテイする。

(6) 自転車をセイビする。

(7) 今年はホウサクだ。

(8) 道にマヨウ。

ことば・コトバ・言葉

1 次の漢字の成り立ちをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 中	(2) 明	(3) 紙
(4) 貝	(5) 頭	(6) 岩
(7) 鳴	(8) 目	(9) 本

ア 象形文字 イ 指事文字
ウ 会意文字 エ 形声文字

2 次の形声文字の意味を表している部分を□に書き、その部分が表している意味をあとから選び、()に記号で答えなさい。

(1) 客	(2) 働
(3) 速	(4) 階
(5) 持	(6) 議
(7) 球	(8) 照

ア 高くなっているところ
ウ まるいもの
オ 言うこと
キ 行くこと、進むこと

イ 人
エ 火
カ 家の屋根
ク 手

第3回

物語文1

鳥海山の空の上から (3)



ことば・コトバ・言葉

漢字の部首

漢字はいくつかの部分が集まってできていますが、漢字を分類するときの基準となる部分を部首といいます。同じ部首をもつ漢字どうしは、意味にも共通点があります。

部首は、漢字のどこにあるかによって、次の七つに分けられます。

(1) へん	持・投 てへん…手に関する。
(2) つくり	別・判 りっとう…刀に関する。
(3) かまえ	郡・都 おおざと…集落に関する。 国・回 くにがまえ…囲むことに関する。
(4) かんむり	雲・雪 あめかんむり…雨に関する。 笛・節 たけかんむり…竹に関する。
(5) あし	念・悲 こころ…心に関する。 貨・買 こがい…お金や財産に関する。
(6) たれ	病 やまいだれ…病気に 店・庭 まだれ…家に関する。
(7) によ	追・通 しんによ…行くこと そうによ…走ること



漢字を書こう。

件	条	勢	比	評	略	応	過
イ 6 ケン	木 7 ジョウ	カ 13 セイ いきおい	比 4 くらべる	言 12 ヒョウ	田 11 リヤク	心 7 オウ こたえる	辶 12 あやまら* あやまら* あやまら*
(1) ジケンが起きる。	(2) ジョウヤクを結ぶ。	(3) 友人がオオセイいる。	(4) 速さをクラべる。	(5) 酒のヒンピョウカイ。	(6) リヤクズをかく。	(7) オウヨウ問題を解く。	(8) カダイな期待がかかる。

一匹きの犬がまいごになっているよ。同じ音の漢字を通して家に帰ると、どの家にとり着くかな？

スタート ↓

	ア 器					
ウ 機	記	教	究	強	季	希
	気	帰	喜	期	起	紀
	拳	球	客	苦	去	鏡
エ 汽	級	急	共	区	協	求
			旗		庫	議

イ

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

翔太とユリアは、休んで待っているというお波さんを残し、山を登った。もどる途中お波さんらしい姿が見え、大声で名前を呼んだが、返事も動く様子もなかった。ユリアは「お波さんが大変だ」といって山道をかけた。

「お波さん、お波さん、お波さん」

と、何度もお波さんの名前を呼びながら、一目散に下っていく。やがて、手前の山にかくれて、鳥ノ海もお波さんも見えなくなった。鳥ノ海へ行く道との分岐まで下った。やはり、お波さんの姿はなかった。さっきはここで待っているといったのに、お波さんはきていない。そこから鳥ノ海に向かって登り坂だ。ユリアは口もきかずにかけのぼり続けた。

登りきったところで、鳥ノ海近くにいるお波さんの姿が見えた。相変わらずお波さんはビクともしない。横になったままだ。

ようやく、お波さんの近くまで行くと、ユリアは足を止めた。はあはあと、苦しそうに肩で息をしている。

翔太も、少しして追いついた。

「お波さん」

苦しそうな息の合間に、ユリアはまた名前を呼んだ。

お波さんは、じっとしたまま動かない。顔には山に登る時かぶっていた帽子をのせている。

しばらく、時が流れた。お波さんがもそっと動いた。次にゆっくりと、自分の顔の上の帽子をとった。

「ああ、すっかりいい気持ちで眠っちゃった」

そして、仰向けになったまま、真上から見おろしているユリアと翔太

太の顔を、まぶしそうに見た。

「ここに寝ころんで、風に吹かれていたら、パッフェルベルのカノンが頭の中に聞こえてきたのよ。なんて幸せなんだろうと思っっているうちに、すーっと眠っちゃった」

それを聞いたとたん、ユリアは突然、ポロポロと涙をこぼした。お波さんも驚いた顔をしたけど、翔太も驚いた。ユリアはいつもクールで、激しく怒ったり、笑ったり、まして泣いたりするなんて想像もできなかったからだ。

「どうしたね、ユリちゃん？」

お波さんが、心配そうに聞いた。

ユリアは指先で涙をはらうと、またいつものユリアにもどって、いった。

「お波さんが死んじゃったのかと思った」

お波さんは笑いながら、起きあがった。

「いっくら天国みたいなどころにいるからって、本物の天国にゆくのよ、まだちーっと早いよ」

お波さんは、それからしばらく鳥ノ海を見ていた。

「あたしの病気のこと、タケシから聞いたんだね」

ユリアはうなずいた。

「グランパが、治らない病気だった」

(三輪裕子「鳥海山の空の上から」)

* 1 パッフェルベルのカノンクラシック音楽。お波さんの大好きな曲で、眠るときに聴いている。

* 2 クールII冷静なさま。

* 3 タケシ、* 4 グランパIIユリアの祖父のこと。お波さんの弟。

問一

線①「何度もお波さんの名前を呼びながら」とありますが、ユリアのどんな様子が表れていますか。もっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア とまどっている様子。
イ あせっている様子。
ウ 落ちこんでいる様子。
エ 開き直っている様子。

問二

線②「そこ」とはどこですか。文中から十一字で書きぬきなさい。

Grid for question 2: 2x2 top-left, 1x10 horizontal line below.

問三

線③「ユリアは口もきかずにかけのぼり続けた」とありますが、このように必死に走る様子を表すことばを、文中から四字で書きぬきなさい。

Grid for question 3: 1x4 horizontal line.

問四

線④「じっとしたまま動かない」とありますが、この様子を表す別のことばを文中から七字で書きぬきなさい。

Grid for question 4: 1x7 horizontal line.

問五

線⑤「ユリアは突然、ポロポロと涙をこぼした」とあり

ますが、この様子からわかることとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア うらぎられたようで悲しくなったこと。
イ はずかしくて、気まぎらくなったこと。
ウ 安心して、気がゆるんだこと。
エ うれしくて、はしゃいでいること。

問六

線⑥「お波さんは、それからしばらく鳥ノ海を見ていた」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) お波さんにとって今いる場所はどんなところといえますか。次の□□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

Grid for question 6(1): 2x2 top-left, 1x10 horizontal line below.

(2) お波さんがこのとき考えていたことの内容としてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 翔太とユリアが本物の天国について知っていた理由。
イ 翔太がユリアを連れて山道をかけのぼってきた理由。
ウ 翔太が、ユリアが涙をこぼしたのを見て驚いた理由。
エ ユリアがいつもとはまったく異なる様子だった理由。

問七

この文章の「」までの部分を二つに分けるとすると、後半はどこからですか。後半のまとまりの初めの五字を文中から書きぬきなさい。

Grid for question 7: 1x5 horizontal line.

1 次の漢字の部首はあとのどれにあてはまりますか。記号で答えなさい。(同じ記号を二度使ってもよい。)

- | | | |
|-------|-------|-------|
| (1) 新 | (2) 回 | (3) 屋 |
| (4) 飲 | (5) 形 | (6) 葉 |
| (7) 街 | (8) 返 | (9) 船 |
- アへん イつくり ウかまえ エかんむり
オあし カたれ キによう

2 次の漢字の部首を□に書き、部首名をひらがなで□に書きなさい。

- | | |
|--------|--------|
| (1) 願 | (2) 登 |
| (3) 熱 | (4) 究 |
| (5) 秒 | (6) 神 |
| (7) 間 | (8) 情 |
| (9) 待 | (10) 陸 |
| (11) 歌 | (12) 京 |

第4回

説明文1

友だちいないと不安だ症候群につける薬 (1)



◆段落の要旨

文章を組み立てている一つ一つの内容のまとまりを「段落」といいます。段落には、次の二つがあります。

形式段落 一字下げて行がえになっているひとまとまり

意味段落 いくつかの形式段落が集まった大きな意味のまとまり

説明文を読むうえでは、各段落で筆者が言おうとしていることの中心をとらえることが大切です。

(1) 段落の話題をとらえる。

まずは、その段落がどんなことについて述べたものかをとらえます。話題は、問いかけの形で示されることがよくあります。

(2) 段落の要点をとらえる。
段落の要点をとらえるには、「内容をまとめた文(キーセンテンス)」と「具体例を述べた文」とを区別して読む必要があります。段落の中心となるのは「内容をまとめた文」なので、「内容をまとめた文」を、キーワードを手がかりにしてとらえます。
・キーワード：話題の中心となる重要なことばです。話題を示す文をはじめ、何度も使われます。

(3) 要旨をまとめる。

段落の内容をまとめます。(1)でとらえた話題に合う形で、キーワードや「内容をまとめた文」の表現を使ってまとめれば、中心となることがはっきりするようにまとめることができます。



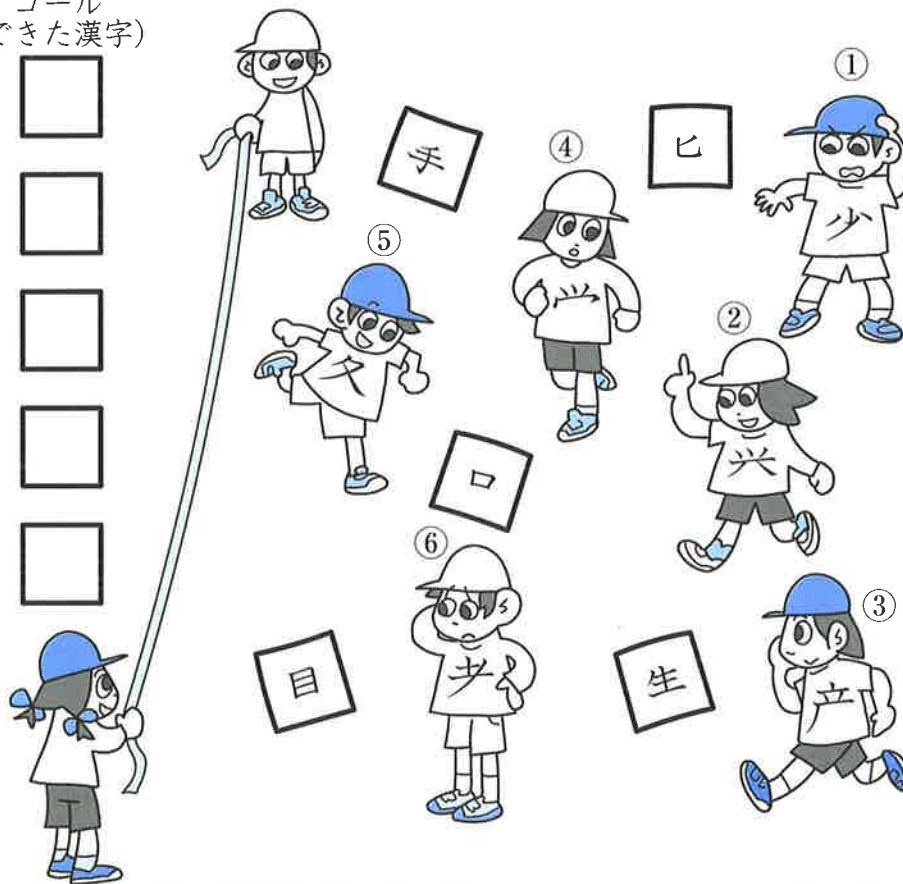
漢字を書こう。

確	性	適	導	易	益	個	災
石 15 カク たしか たしかめる	イ 8 セイ シヨウ*	シ 14 テキ	寸 15 ドウ みちびく	日 8 エイ イキ やさしい	皿 10 エキ ヤク*	イ 10 コ	火 7 サイ わざわい*
(1) カクジツな情報を得る。	(2) 水のセイシツを調べる。	(3) 部屋をテキオンにする。	(4) 作文をシドウする。	(5) ヨウイに解けるクイズ。	(6) リエキが上がる。	(7) コシツに入る。	(8) サイガイにみまわれる。

借り物競走をします。必要な部分を手に入れて漢字を作り、ゴールしよう。うまく借り物ができない人はだれかな？

ゴール (できた漢字)

-
-
-
-
-
-



文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)~(5)は意味段落の番号を表します。

1 「友情」というものがちゃんと成立するには、タイミングが必要です。小学生時代はついにそういう関係はなかったとか、中学三年間通して一度も友情と言えるものがなかったということもあり得るのです。でも、それは誰が悪いわけではなくて、相性がよくなかったとか、あるいは自分自身にそういう高め合うような友だち関係を維持していくメンタリティー、心のあり方がまだ備わっていなかったということなのです。

2 その友情というのが、一つの友だち関係の中の非常に「向上心にあふれた部分」だとすると、現在の世の中では、もう少し「ゆるい友だち関係」というのも必要ではないでしょうか。

一人親友がいて、友だちはその人だけというところと幅が狭いと言えます。今の人が求めているのは「浅く広い関係性」です。メル友くらいの感じですか。

3 メル友が百人、二百人いる人はさらにいるようですが、やはり現代は携帯電話によって人間関係が大きく変化していて、一人でいる時間でも、友だちとゆるやかにつながっている感覚を持ち得るのです。

勉強していたり音楽を聴いている時に、常に携帯が側にあり、携帯なしではトイレにも行けない。それは、携帯がなかった世代からすると携帯に依存しているように見えますが、でもこの時代に生きていくには、携帯なしでは辛いのです。

なぜかというところ、夜遅くの電話のように相手に迷惑をかけずに、簡単に意思を伝えられるというのは、非常に便利なことです。「今、〇〇をテレビでやっているから見ろよ」というような、昔ならばかばかしく

くて電話では言えないことでも、メールならば気軽に言えるし、常に人とつながっている感覚が持てるのです。

そういう意味では、昔よりも「友だち力」というものが維持しやすい条件は整っていると言えるでしょう。

4 友だちを維持しやすい条件は整っているのですが、逆に、メールが来ないと不安になったりします。メール依存症に近いものです。

友だちとつながっていない状況、連絡が来ない状況が三日も続くと、不安で頭がおかしくなりそうになるのです。

3 かつて私は、友だちが全くいないという時期がありました。とても仲の良い友だちはいたのだけれど、一週間誰も会わないとか、ほとんど話をしなかったという状況が、十代の終わりにはあったのです。そういう時期を過ごした経験からすると、二、三日誰からも連絡がないと心配になるところはなかったと思います。

5 最近の人は、ふだんからゆるやかなセイフティーネットのようなのを、携帯のネットワークで張っているようです。これは、心を安定させるには、それなりに有効な手段だろうと思います。

お互いに好きなものがあると、「あれ見た」とか、「あれ食べた」とか、「あそこに行った」というような話題をメールして、コミュニケーションをとっていく。

こういうゆるやかなつきあいをしていくのも、一つの友だち力と言えます。また、こういうつきあいが苦手で、たくさん友だちとはつきあえない人もいます。でも数は少ないけれど話せる人はいるし、それで満足できるという人は、これはこれで「友だち力」があるとということになります。(齋藤孝『友だちいないと不安だ症候群につける薬』)

*1メル友IIメールをやり取りする友だち。
*2依存II他のものにたよって存在すること。
*3セイフティーネットII万が一のときに最悪の事態にならないようにする仕組み。

問一 ①段落で、筆者が最も言いたいことが書かれている一文は……線A~Cのうちどれですか。記号で答えなさい。

問二 ②段落の要旨をまとめた次の文の□□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

現在世の中の人々が求めているのは、
□□である。

問三 線①「一つの友だち関係の中の非常に『向上心にあふれた部分』とは、つまりどんな関係のあり方をいったものですか。文中から十二字で書きぬきなさい。

問四 線②「携帯電話」を持つことの欠点について述べているのは何段落ですか。段落番号で答えなさい。

問五 線③「かつて私は」で始まる形式段落は、④段落の中でどんな役割を果たしていますか。もっともよいものを次のア~エから選び、記号で答えなさい。

ア 前で述べたことに反する自分自身の経験を紹介し、別の可能性を説明している。

イ 前で述べたことが、誰にでも起こりうるものだという自分を自身自身の経験もまじえて説明している。

ウ 前で述べたことに反する自分自身の経験を紹介しながら、何が起きるかわからない状況を説明している。

エ 前で述べたことが、現代に特有のものだという自分を自身自身の経験を通して説明している。

問六 線④「友だち力」とは、ここではどんな能力のことですか。次の文の□□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

携帯電話をセイフティーネットとして使い、友だちと□□をする能力。

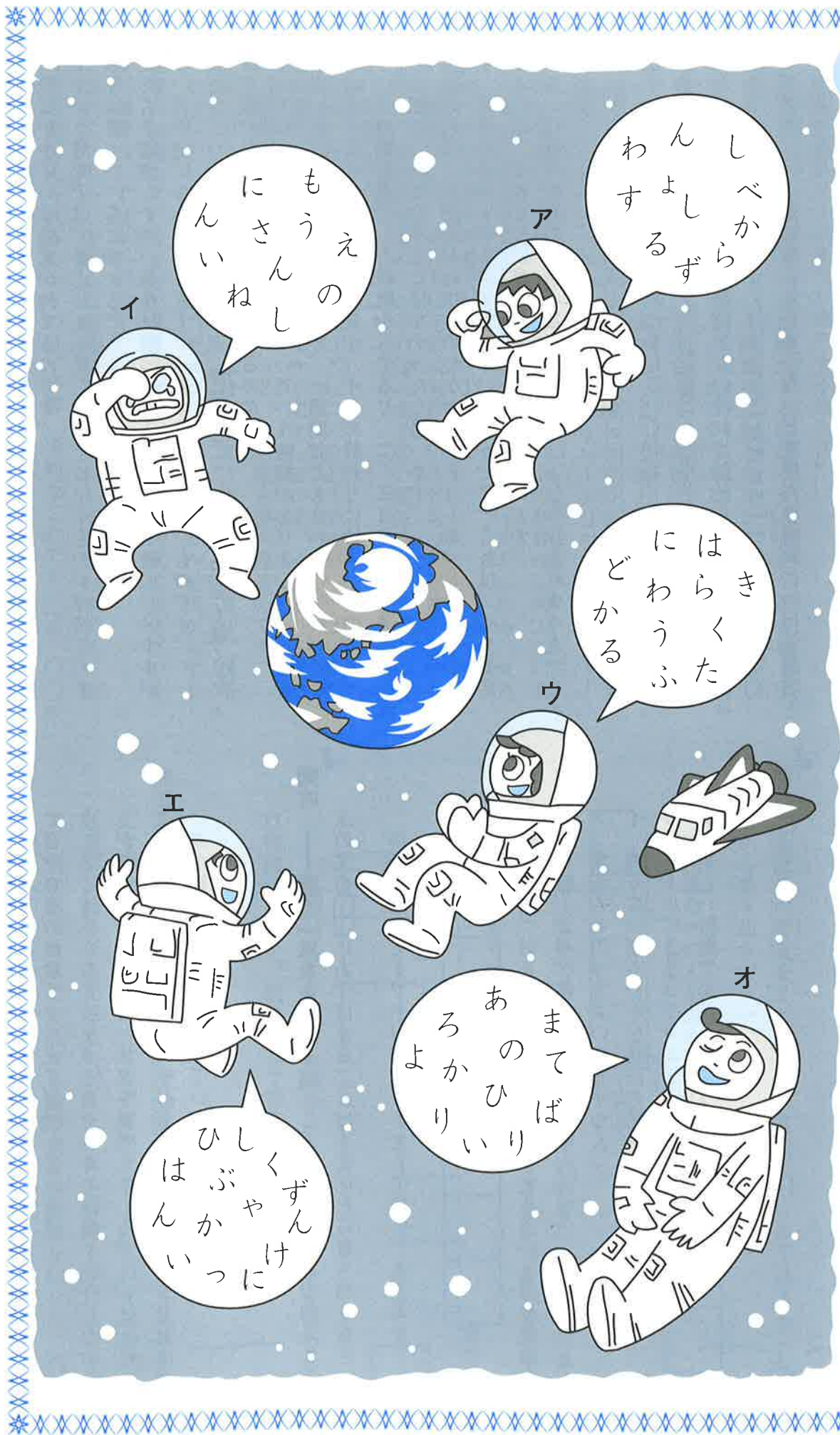
問七 ⑤段落につける小見出しとしてもっともよいものを次のア~エから選び、記号で答えなさい。

ア 友だちとのつきあいが苦手な人
イ 浅く広いゆるやかな友だち関係
ウ メールによるコミュニケーション
エ 楽しい話題で友だち力をつける



無重力でひと言

宇宙飛行士たちが、ことわざで思いを表しているよ。それぞれ何と言っているかな？ ひらがなを正しくならべてみよう。



説明文1

友だちいないと不安だ症候群につける薬 (2)



漢字を書こう。

率
玄 11
ソツ*
リツ
ひきいる

(1) 当たるカクリツが高い。

態
心 14
タイ

(2) タイドを決める。

価
イ 8
カ
あたい*

(3) ブッカの高い都市。

眼
目 11
ガン
ゲン*
まなこ*

(4) キンガンのめがね。

久
ノ 3
キュウ
ク*
ひさしい

(5) ヒサしぶりに会う友。

故
文 9
コ
ゆえ*

(6) 交通ジコにあう。

賛
貝 15
サン

(7) 兄の意見にサンセイだ。

支
支 4
シ
ささえる

(8) 駅前にシテンを出す。

ことわざ

ことば・コトバ・言葉

第5回

ことわざは、昔から言い伝えられている短いことばで、教えやいましめなどの意味をふくんでいます。

例 ・あぶはちとらずニつものものを取るうとよくばって、結局どちらもとれないこと。

・雨降って地固まるニもめごとなど悪いことが起こったあとは、かえって前よりもよい状態になること。

・石の上にも三年ニ辛抱していればやがては成功するということ。

・一寸先はやみニ先の見通しが立たないこと。

・馬の耳に念仏ニ意見や忠告をしても全く聞く気配がなく、効き目がないこと。

・きじも鳴かずばうたれまいニよいいなことを言わなければ、災難にあわずにすむ。

・善は急げニよいと思ったことは、すぐ実行せよ。

・たで食う虫も好き好きニ人によって好みはさまざまであること。

・どんぐりのせいくらべニみんな同じくらいで、特にすぐれたものがないこと。

・花よりだんごニ①風流がわからないこと。

②外見よりも内容が大事なこと。

・ひょうたんからこまニじょうだんで言っていたことが本当になること。

ことば・コトバ・言葉

1 上のことばと下のことばを——線で結び、ことわざを完成させなさい。

- (1) ちりもつもれば . . . まわれ
- (2) 急がば . . . わらをもつかむ
- (3) おぼれる者は . . . 山となる

2 次のことわざの [] に入ることばを下の [] から選び、書き入れなさい。

- (1) 能ある [] はつめをかくす
- (2) [] の下の力持ち
- (3) 身から出た []

さび	ねこ
鉄	たか
えん	ちり

3 次のことわざの意味とよく似た意味のことわざをあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 念には念を入れよ []
- (2) かつばの川流れ []
- (3) ぬかにくぎ []

- ア のれんにうでおし
- イ さるも木から落ちる
- ウ 石橋をたたいてわたる

説明文1

友だちいないと不安だ症候群につける薬 (3)



漢字を書こう。

永	水 5	エイ	ながい
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]

救	文 11	キユウ	すくう
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]

提	イ 12	テイ	さげる*
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]

貧	貝 11	ビン*	まずしい
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]

復	イ 12	フク	[]
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]

暴	日 15	バウ	あはれる*
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]
[]	[]	[]	[]

次のなぞかけにあてはまるものを下の絵から消していくと、最後に一つ残る絵があるよ。それはどれかな？

立つもの	
回るもの	
回らなくなるもの	
たこができるもの	
ぼうになるもの	
すっぱくするもの	
風を切るもの	

慣用句

二つ以上のことばが結びついて、特別の意味を表すようになったことばを慣用句といいます。

例 ・頭がいたい⇒うまくいかないことがあって、なやむ。

- ・馬が合う⇒気が合う。
- ・弟はとなりの席の子と馬が合うらしく、よく遊びに行く。
- ・口がかたい⇒やたらと人にしゃべらない。
- ・あの人は口がかたいので、何を話してもだいたいじょうぶだ。
- ・首を長くする⇒とても楽しみにして待つ。
- ・祖父からの手紙が届くのを、首を長くして待っていた。
- ・世話を焼く⇒進んで人のめんどうをみる。
- ・母は何だかんだとぼくの世話を焼く。
- ・鼻が高い⇒得意である。じまんである。
- ・兄が水泳大会でゆう勝したので、ぼくも鼻が高い。
- ・日の目を見る⇒世間に知られるようになる。
- ・長年の研究の成果がやっと日の目を見ることになった。
- ・目がない⇒たいそう好きである。
- ・父はあまいものに目がない。
- ・わけはない⇒かんたんである。
- ・決められたとおりにやるだけならわけはない。

★ 文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)～(5)は意味段落の番号を表します。

1 そんなに寂しさを感じないで、ひとりである時が快適に思えること
もあります。孤独の時間というものを、もっと積極的に意義あるもの
にするべきです。

寂しいという気持ちを徹底して強めていくことで仕事へ向かうエネ
ルギーに転換するとか、勉強するエネルギーに変えていくとか、そう
いう「孤独力」みたいなものを持っていければいいのです。

2 ただし、ひとりである時に充分楽しめる「何か」を持っているとい
うことが必要になります。その「何か」をあらかじめ作っておかない
と、ひとりになった時に、やはり寂しくなってしまう。

私の場合は、座禅や、ヨガや、ストレッチングをやっている、これ
はひとりの時間を延々つづせるよい方法でした。ヨガを習って、ひと
りで呼吸法のポーズをとっていると、人がいるとやりにくくて、じや
まになってくるのです。ですから、これはひとりの時間にやるのがふ
さわしいのです。

このように、ひとりの時間には自分の身体とつきあうというのが、
とてもよい方法でしょう。ストレッチング一つとっても、結構時間を
かけて楽しめる方法があつて、音楽をかけながらもいいのですので、
ひとりで自分の身体とつきあうというのなかなかいいのではないで
しょうか。

ひとりの時間を楽しむ方法としては、読書や音楽や絵を描くことな
ども、一般的な方法としてあります。

3 ひとりの時間と言っても、自分の部屋にこもって妙に落ち着いてし
まって、いわゆる引きこもりに近い状態になってしまうと危険です。

ネットを通じてなら人と話せるのだけれど、現実の人間と対面する
という状況に適応できなくなってしまう。そうすると、もう家から踏
み出せなくなって、外は怖いということになりますので、こういう状
況は避けたい。

ひとりでも大丈夫というのはよいのですが、他の人との対面はダメ
ということになってしまうと、ちょっと危険です。他の人の持っている
世界に対する好奇心がなくなるのは、よくないことです。自分の殻の
中に入って、自分の世界を閉じた状態が固まってしまつて、いよいよ
よ人とは話せなくなつてきてしまつてしまう。これがあまり進むと、犯罪に一
歩近づくとこの怖さもある。ですから、これもほどほどがいいのです。
極端な孤独の状態に入る場合には、修行だと思つてやったほうがよ
いのです。修行だと思つて勉強しているうちは大丈夫。

女同士もグループ化が激しいので、かえって孤独のほうが楽な場合
もあります。ひとりであるというのは、慣れてみると だったり
することもあります。

4 人生にも季節があつて、それぞれの時期の友だちというのがありま
す。熱い友情を語ることもあれば、仕事上のつきあいでも何となく友だ
ちであることもある。

かなり年が離れていても、二十歳くらい年下でも、友だちっぽくな
つてしまう人もいます。そういう友だちが、ちょうど心地よい年齢
たいなものがありません。

5 友だち力というのは、友だちを作る力ではないのです。無理して作
らなくてもいいということも含めて、友だちとの距離感をコントロー
ルできるということです。距離感が大事というニュアンスです。
友だちとの距離感を意識して、自分でコントロールできていけば大
丈夫なのです。(齋藤孝『友だちいないと不安だ症候群につける薬』)

*1 ニュアンス II ここでは、意味合い。

問一 線①「孤独の時間というものを、もっと積極的に意義ある
ものにする」とありますが、それができる能力を筆者は何と呼ん
でいますか。①段落の文中から書きぬきなさい。

問二 ②段落の小見出しとして使える十二字のことばを文中から書き
ぬきなさい。

問三 線②「引きこもりに近い状態」の人と、③「修行だと思つ
て」いる人は、ひとりの時間に対してどんな姿勢でいると言えま
すか。もっともよいものを次のア～エから選び、それぞれ記号で
答えなさい。

- ア ひとりであることをいやがっている。
- イ ひとりであることににげこんでいる。
- ウ ひとりであることをうらんでいる。
- エ ひとりであることを利用している。

② ③

問四 にあてはまることばとしてもっともよいものを次のア～
エから選び、記号で答えなさい。

- ア 危険
- イ 安全
- ウ 不快
- エ 快適

問五 ③段落の要旨をまとめた次の文の にあてはまることばを文
中から書きぬきなさい。

孤独であることはよいが、
 にはいけない。

問六 ④段落に書かれている内容としてもっともよいものを次のア～
エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人生の中で、いろいろな友だちが急激に増える時期があるも
のだ。
- イ 友だちと自分が人生のどれぐらいの間つきあうのかは、そ
れぞれの年齢によってちがうものだ。
- ウ どんな相手であっても、つきあうのにちょうどよい年齢があ
るものだ。
- エ 友だちというものは、人生の時期・年齢によって、いろいろ
なつきあい方、いろいろな相手があるものだ。

問七 ⑤段落の要旨をまとめた次の文の にあてはまることばを、
それぞれ文中から書きぬきなさい。

ことば・コトバ・言葉

1 次の慣用句の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) へそを曲げる

(2) かぶとをぬぐ

(3) 身にしてみる

ア 降参する

イ きげんを悪くする

ウ 強く感じられる

2 次の慣用句の□に入ることばを下の□から選び、書き入れなさい。

(1) □をやく(□もてあます)

(2) □をかたむける(□熱心に話を聞く)

(3) □が重い(□あまり話をしない)

(4) □がたたない(□かなわない)

腹はら 口顔 耳腕 手足

3 線部の慣用句が正しく使われている方に○をつけなさい。

(1) ア かれの絵のみごとさに舌をまいた。

イ ぼくの絵の方がうまいと舌をまいた。

ア とても美しかったので首をかしげた。

イ なぜこんなことが起きたのだろうと首をかしげた。

第7回

物語文2

友だちじゃないか(1)



ねらい

◆登場人物をとらえる

物語では登場人物をとらえることが大切です。登場人物という人間だけのようですが、動物や植物でも、人間のように考えたり話したりするのは、登場人物です。

(1) だれが登場するのかをとらえる。

それぞれの場面においてだれが登場するのかに注目して、すべての登場人物をとらえます。

(2) 登場人物の性格をとらえる。

それぞれの登場人物の性格をとらえます。登場人物の心情は場面によって変わりますが、性格はあまり変わりません。

(1) 性格を直接表した表現をとらえる。

地の文で登場人物の性格を述べているところのほか、他の登場人物がその人物のことをどのように言っているかにも注意します。

(2) しぐさ・様子・行動からとらえる。

物語中で起きるできごとに対しての登場人物のふるまいから性格をとらえることができます。

(3) 登場人物どうしの関係をとらえる。

物語に登場する人物(特に主人公)が、他の人物とどんな関係にあるかをとらえましょう。登場人物の立場(地位・職業など)や会話の口調などに注意します。



漢字を書こう。

講 言 17 コウ

(1) コウドウに集まる。

罪 罸 13 ゴ 罪 ゴ

(2) ゴザイが証明される。

志 心 7 シ 志 シ

(3) シボウした中学校に入る。

師 巾 10 シ 師 シ

(4) 魚をとるリョウシ。

犯 歹 5 ハン 犯 ハン

(5) ハンニンをつかまえる。

報 土 12 ホウ 報 ホウ

(6) ジョウホウを整理する。



図書委員のはるかさんは、五年生みんなにもっと本を読んでもらいたいと思います。学校図書室について、五年生にアンケートを取りました。次は、アンケートの結果とはるかさんの提案です。あなたはどの提案がよいと思いますか。アンケートの結果をふまえ、理由をふくめて書きなさい。

アンケートの結果

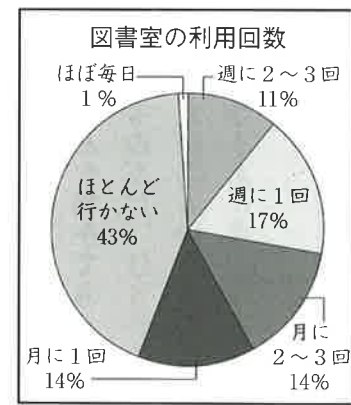


Table with 2 columns: 理由 (Reason) and 人数 (Number of people). Rows include: 何を読んだらよいかわからない (9), 読みたい本が図書室に少ない (18), 図書室に行く時間がない (6), 開館時間が短い (2), 本は自分で買っている (5), 読書に興味がない (7), その他 (2).

はるかさんの提案

- ① 読みたい本のアンケートを取り、学校で本を買ってもらおう。
② おすすめの本を図書新聞などでしようかいうる。
③ 休み時間にも利用できるよう、司書の先生に相談する。

ことば・「トバ」言葉

1 次の「みる」のうち、「目でとらえる」という意味で使われているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 機械を動かして、具合をみる。

イ 小さな弟のめんどろをみる。

ウ 庭に出て、さいている花をみる。

2 次の線部のことばの意味をあとから選び、記号で答えなさい。

① レベルの高い試合になった。

② このゲームは高いので今日は買えない。

③ 父はぼくよりも背が高い。

ア 上に長い イ たくさんお金がいる
ウ すぐれている

① 荷物が多いので、手をかしてくれないか。

② ねんどうを手でこねる。

③ 作品にもう少し手を加えた。

④ うまいこと言っても、その手には乗らないぞ。

ア 方法 イ 仕事 ウ 労働力
エ 体の手首から先の部分

まとめのふくしゅう

タイムテスト

1 次の線部の漢字の読み方を書きなさい。

(1) 暴風雨におそわれる。

(2) 問題を解く。

(3) 答えを導く。

(4) 学級会で提案する。

(5) おうえん団を率いる。

(6) 勢いよく川が流れる。

(7) けがの状態は軽い。

(8) 講演をきく。

2 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。(各2点)

(1) やわらかいブツツ。

(2) 入場をセイゲンする。

(3) 電話番号をタシかめる。

(4) ジョウケンをつける。

(5) おじさんの家にヨる。

(6) 授業のフクシユウをする。

みんな同じ一つのことばについてしゃべっているはずなのに、様子がちがうよ。何ということばについてしゃべっているのかな？



(1)

(7) すがたをアラワす。

(8) 水かさガマす。

3 次の漢字の成り立ちをあとのア〜エから選び、記号で答えなさい。

また、成り立ちが同じ漢字を□の中から選び、□に書き入れなさい。(各完答4点)

(1) 森

(2) 個

(3) 雨

(4) 末

ア 象形文字

イ 指事文字

ウ 会意文字

エ 形声文字

下計鳥晴

4 次の部首の読み方をひらがなで書きなさい。また、表す意味をあとのア〜エから選び、それぞれ記号で答えなさい。(各完答3点)

(1) 彡

(2) 冫 (右側)

(3) 卜

(4) 辶

(5) 疒

(6) 言

エ 火

オ 言葉

カ 病氣

ウ 村・居住地

月 日 得点

/100点

5 次の(1)～(4)がことわざになるように、□にあてはまる漢数字を書き入れなさい。(各2点)

(1) 三つ子のたましい □ まで

(2) 悪事 □ 里を走る

(3) □ 人よればもんじゆの知恵

(4) □ なくて □ くせ

6 次のことわざと反対の意味を表すことわざをあとのア～ウから選び、それぞれ記号で答えなさい。(各2点)

(1) わたる世間に鬼はない

(2) 立つ鳥あとをにごさず

(3) うりのつるになすびはならぬ

ア とんびがたかを生む

イ 人を見たらどろぼうと思え

ウ あとは野となれ山となれ

7 次の慣用句の意味をあとのア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。(各2点)

(1) ねこの手も借りた

(2) 馬が合う

(3) お茶をにごす

(4) くぎをさす

ア その場をごまかす

イ 非常にいそがしい

ウ あとで言いがれできないように念をおす

エ 気が合う

8 次のことばを組み合わせてできる複合語の読みをひらがなで書きなさい。(各2点)

(1) 歩く+回る

(2) 青い+空

(3) 折る+紙

9 次の「明るい」の意味をあとのア～ウから選び、それぞれ記号で答えなさい。(各2点)

(1) となりのおじさんは、この辺の地理に明るい。

(2) 母はどんなときでも明るいので、人に好かれる。

(3) まどが大きいので、この部屋はとても明るい。

ア 光の量が多い

イ 心が晴れ晴れしている

ウ よく知っている

第10回 物語文3

ぼくらの山の学校 (1)



ねらい

◆心情をとらえる

心情とは気持ちのことです。物語を読むときには、登場人物の心情をとらえることが大切です。

(1) 直接的な表現をとらえる。

「うれしい」「悲しい」「はらを立てる」など、気持ちを直接表したことをとらえましょう。

(2) 登場人物の発言に注目する。

気持ちを直接言わなくても、人のことは気持ちを表すことがあります。

(3) 登場人物の表情や様子、行動に注目する。

ことばだけでなく、表情や様子、行動からも、その人物の気持ちを考えてことができます。

(4) 登場人物の性格に注目する。

同じことばや行動であっても、だれが言う(行動する)かによってそこに表される気持ちは変わってきます。(↓参考29ページ)

(5) 情景から人物の気持ちを考える。

人物ではなく、情景を表すことばからも、人物の気持ちを読み取ることができます。

登場人物の心情をとらえるときには、自分がその人物になったつもりで気持ちを考えましょう。

漢字を書こう。

桜
木 10
オウ*
さくら

(1) サクラを植える。

告
ロ 7
コク
つげる

(2) 真実をツげる。

序
广 7
ジョ

(3) ジュンジョよく話す。

責
貝 11
セキ
せめる

(4) 人のあやまちをセめる。

張
弓 11
チヨウ
はる

(5) 会議でシユチヨウする。

複
ネ 14
フク

(6) フクザツなくみ。



ことわざ野鳥館

□にあてはまる鳥の名前を書こう。あれ？一羽足りないよ。何という鳥かな？



野鳥の森
ここには
こんな鳥がいるよ。

① の一声

② 鶉のまねをする

③ 百までおどりわすれず

④ に油あげをさらわれる

⑤ 能ある はつめをかくす

⑥ も鳴かずばうたれまい

⑦ が豆鉄ぼう
を食ったよう



木の実を
食べているのは
②の鳥だね。

巣の上に
いるのは
⑤の鳥だわ！

第10回 物語文3 ぼくらの山の学校 (2)

ことば・コトバ・言葉

同音異義語

漢字には、同じ音をもつものが多くあります。これを同音異字とい
います。

例 シン……心配 信用 身長 真実

それらの漢字を組み合わせてできている熟語には、同じ音で意味の
ちがう語が多くあります。これを同音異義語といいます。

例 シンジョウ 心情 ↓ 心の中で思っていること。
信条 ↓ 大切なことと信じて、守っていること。
身上 ↓ その人に関わること。その人本来のよさ。

○覚えておきたい同音異義語

カイシン 人のやさしさにふれ、改心した。

カイシン 会心の作が出来上がった。

キカン 街の交通機関を調べる。

キカン 期間限定の商品を買う。

コジン 個人戦で決勝まで勝ち進む。

コジン 故人をしのぶ。

ツイキユウ 理想を追求する。

ツイキユウ 責任を追及する。

メイアン とびきりの名案がうかんだ。
わずかなミスが試合の明暗を分けた。

漢字を書こう。

用 □ 7
かこむ

識 言 19
シキ

貸 貝 12
タイ*

毒 母 8
ドク

任 イ 6
ニン

綿 糸 14
メン

(1) 池をさくでカコむ。

(2) イシキを失う。

(3) 本を友達にカす。

(4) ドクへびにかまれる。

(5) セキニンはたす。

(6) タンポポのワタゲ。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日が落ちるのを待って、肝試しが始まった。山の中にある神社の、賽銭箱に貼り付けてあるセンター長が作ったお札を取ってくるというものだった。枯れ葉を踏む音が大きくなって、山から開くんが飛び出してきた。

「取ったぞ！」

まるで金メダルみたいみんなの前にお札をかざした。開くんの体からはプンツと汗と山の匂いがたち上った。

「おー、さすが六年生やなあ。よしっ、次はだれが行くんや」
松つあんの問いかけに、

「はいっ！」

ぼくはまっすぐ腕を突き上げた。どうせ行くんだ。だったら早いほうがいい。ぐずぐずしてたらよけいにこわくなる。ぎゅっ。両腕にすがっている雄大とたくとの手に力がこもった。頼りにされてると思うと、武者ぶるいが出る。

「よしっ。じゃ、行ってこい」

センター長がぼんとぼくの肩をたたいた。

「団子状態のぼくたちは、こわごわ山道に足を踏み入れた。懐中電灯は雄大が持っている一本きりだ。そいつを右へ左へ忙しく動かすから、肝心の足元が暗くて見えない。おまけに浮かび上がる木のシルエットがガイコツみたいでこわかった。

「やめえや。足元照らせ」

声を上ずらせたとたん、

「ホーツ」

山に大きな鳥の声がこだました。ビクリとぼくたちの足がとまる。

「壮くん、歌を歌いながら行こう。『あるう日、森の中、松つあんにでああったあー』」

たくとが拾った枝をふりまわしながら「松つあんの歌」を歌い出した。ぼくと雄大も続いた。

「松つあんが、言うことにやあー、頭がー、寒いからー、ツラをくださいなー、ツラをくださいなー」

歌ってるうちに森の暗さも気にならなくなってきた。頭に浮かぶのは、「こら、おかしな歌、歌うな」という松つあんの怒った顔。雄大の持つ懐中電灯の明かりも楽しそうなりズムを刻んでいる。大声を張り上げながら進むぼくらの目に、苔むして傾きかけた木の鳥居がぼんやり浮かんで見えた。

「……着いた」

三人一緒におそろおそろ足を踏み入れる。ザクツと砂利が鳴った。

「壮くん、こわい」

たくとが [] をすくませる。

「だ、大丈夫だよ。開くんも行ったんだから」

そう言うぼくの声もふるえていた。

バサバサバサ。すぐ近くの木の枝から大きな鳥が飛びたつた。

「こわいよお」

雄大が取り落とした懐中電灯を急いで拾った。

月が出ていた。まんじゅうをまっぶたつに割ったような半月だ。暗い森を背景にうすぼんやりと神社が浮き上がっていた。目をこらすと拝殿の真ん中あたりでなにか白いものが風にゆれている。

「お札だ！」

言うと同時に、ぼくらは砂利を蹴って駆け出した。

(八束澄子『ぼくらの山の学校』)

問一

線①「まるで金メダルみたいみんなの前にお札をかざした」とありますが、このときの開くんの気持ちとしてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 感動して、泣き出したい気持ち。
イ ほめられて、照れくさい気持ち。
ウ やりとげて、ほこらしい気持ち。
エ 無事に終わり、安心した気持ち。

問二

線②「頼りにされてると思うと、武者ぶるいが出る」とありますが、このときのぼく(壮太)の気持ちとしてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 頼られるとは思わず、あわてている。
イ 頼られていると知り、緊張している。
ウ 頼られてしまい、がっかりしている。
エ 頼られるのが意外でおどろいている。

問三

線③「団子状態のぼくたち」とありますが、このときの三人についての説明としてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア こわいので、おたがいにびったり寄りそっている。
イ こわさのあまり、その場から一步も動けないでいる。
ウ こわくてだれかを先に行かせようと押し合っている。
エ こわさからのがれようと、自分の体をまるめている。

問四

線④「歌を歌いながら行こう」とありますが、たくとはなぜこう言ったと考えられますか。あてはまるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 肝試しが楽しくなってきた、歌いたくなったから。
イ 鳥の声を聞き「松つあんの歌」を思い出したから。
ウ 歌えば元気が出るし、気もまぎれると思ったから。
エ 雄大をしかる壮太を歌でなだめようと考えたから。

問五

線⑤「おそろおそろ」とありますが、このことばと同じ意味を表す四字のことばを文中から書きぬきなさい。

- ア 肩
イ 腰
ウ 腕
エ 足

問七

線⑥「だ、大丈夫だよ。開くんも行ったんだから」とありますが、このときのぼくについて述べたものとしてあてはまるものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア こわがるたくとを見て、あきれている。
イ 何でも頼ってこられて、いらついている。
ウ 大丈夫だと確信して、落ち着いている。
エ 自分もこわいのに、強がって見せている。

問八

【内の文中で、ぼくの心情が変化しましたが、ぼく以外の描写からわかる表現を二十三字でさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

Blank boxes for writing answers to Question 8.

ことば・コトバ・言葉

1 次の漢字を組み合わせて同音異義語を二つずつ作りなさい。(同じ漢字を二度使ってもよい。)

好・協・放・医・力・解・意・強・校・開

(1) コウイ

(2) カイホウ

(3) キョウリョク

2 次の線部のかたかなの漢字として正しい方に○をつけなさい。

(1) かれはボランテ^イア活動にカンシン^イア^ア関心^イをもっている。

(2) ぼくはキカイ^イア^ア機会^イをいじるのが大好きだ。

(3) 夏休みのカダイ^イア^ア過大^イに取り組む。

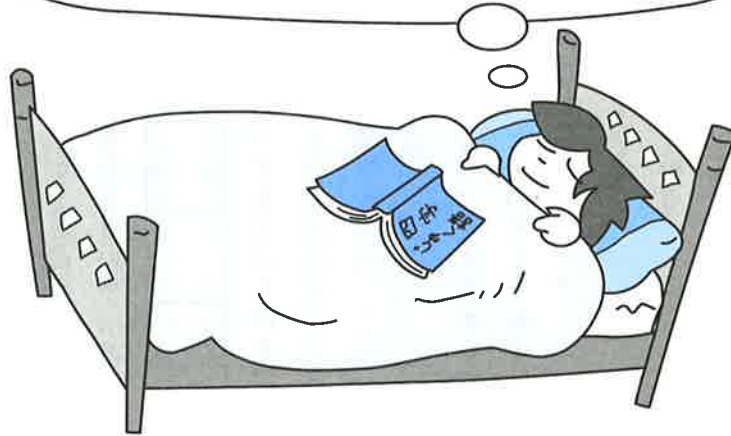
3 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。

(1) キシヤに乗って旅に出る。

(2) わたしの夢は新聞キシヤになることです。

ねる前に覚えた四字熟語がバラバラになって夢に出てきたよ。覚えた四字熟語は何だろうか？すべて答えよう。

日進一石 二月弱 実名鳥無 肉強有歩 寒四万温 食化温 三千变



第12回

物語文3

ぼくらの山の学校 (3)



漢字を書こう。

圧 土5 アツ

(1) アツリヨクをかける。

因 口6 イン よる*

(2) ゲンインを調べる。

仮 イ6 カリケカ*

(3) カメンをかぶる。

混 シ11 ココン ママシビン ママゼる

(4) 駅がコンザツしている。

飼 食13 シンカウ

(5) ウサギをシイクする。

似 イ7 ジン *

(6) ニガオエをかく。

同訓異字

同じ訓読みで、意味のちがう漢字を同訓異字といいます。

○覚えておきたい同訓異字

あう 道で友人に会^う。 答えが合^う。

あげる 調子を上げ^る。 例を挙げ^る。

きく この薬はよく効^く。 親の言うことをよく聞^く。

さす 西を指して行^く。 教室に夕日が差しこむ。

さめる 目が覚め^る。 お茶が冷め^る。

なおる きげんが直^る。 病気が治^る。

なく 赤ちゃんが泣^く。 小鳥が鳴^く。

はやい 頭の回転が速^い。 気が早^い。

まわり 家の周りで遊^ぶ。 遠回^りして行^く。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

十一月のある日のこと、みんなとトランプで遊んでいた雄大は、けんかを
してセンターを飛び出し、夜になっても帰らなかった。手分けして探しても
見つからず、もし山に入っていたら大変危険だと、猟師の元さんに言われた。
ぼくは息苦しくなって、そっとセンターを抜け出した。夜の空が落
ちてきそうな存在感で迫ってきた。目の前の真っ黒な巨人みたいな山
に目をこらす。ぼくは、いつ元さんの鉄砲の音が響きわたるかどびく
ついた。最初はなにも見えなかったけれど、じっと見つめていると漆黒
の山肌にときおりホタルみたいに頼りない光がちらつくのが見えた。
—元さん、もうあんなとこまで上ったんだ。
こぶしに握ったぼくの手のひらに、いつの間にか爪が食いこんでい
た。

10

問三 線③「はじかれたようにぼくはベッドから飛び降りた」に
ついて、次の(1)・(2)に答えなさい。

就寝時間はとくに過ぎていた。
センターの玄関が開けられるひっそりとした音を、最初は夢かと思
った。ベッドで横になっているうちに、ついうとうととしていたらし
い。
「こんばんは—」
そこではつきり目が覚めた。正源寺のおしようさんだ！ はじかれ
たようにぼくはベッドから飛び降りた。玄関に走り出て、目を見張つ
た。なにかがまるでおんぶおばけみたいにおしようさんの背中に張
り付いている。口を開けて眠りこけているその顔は、—雄大！
「お、重い。雄大のベッドはどこや」
おしようさんのおでこには汗がびっしり浮かんでいた。

20

(1) 「はじかれたように」のここの意味としてもっともよいもの
を次のア〜エから選び、記号で答えなさい。
ア 反射的に イ 流動的に
ウ 感覚的に エ 意識的に
(2) このことから、ぼくのどんなことがわかりますか。もっとも
よいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。
ア すっかり寝入ってしまったことを反省していること。
イ 一度は目が覚めたと思ったがまだねぼけていること。
ウ おしようさんがなぜ来たのかとあやしんでいること。
エ 雄大に関して何かがあったのかとあわてっている
こと。

「雄大が帰ってきた—」

ぼくの叫び声に、寝ていたはずのみんなが飛び出してきた大騒ぎに
なった。事務室で明朝からの捜索を消防の人たちと相談していたセン
ター長と松つあんも飛び出してきた。
「うおう—」

25

問四 線④「けものがほえるような声をあげて顔を真っ赤にした」
とありますが、このときのセンター長の心情としてあてはまるも
のを次のア〜エから二つ選び、記号で答えなさい。
ア 興奮 イ 喜び ウ 怒り
エ 失望 オ 悲しみ

おしようさんの背中の雄大を認めると、センター長は、けものがほ
えるような声をあげて顔を真っ赤にした。
「まずはベッドに寝かせんと」

30

問五 線⑤「ドアを閉めたとたん、いっせいにみんなの口が開か
れた」とありますが、このときのみんなの心情の説明としてもっ
ともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。
ア 雄大のあまりにも身勝手な行動にとても腹を立てている。
イ 雄大に関して何かから話せばよいのかわからず、とまどっている。
ウ 安心したのと同時に、雄大の発見について好奇心がわいている。
エ ケンカのせいで雄大を危険な目にあわせたことを反省してい
る。

ぞろ全員で、雄大のベッドまでおしようさんを連れていった。
「しー、静かに。雄大が起きるやろ」
口々に言いあうみんなの顔は、まるでヒーローを迎えるように輝い
ていた。

35

問六 この文章に描かれているぼくの心情について、あてはまるもの
を次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア 雄大のことを一番心配していた自分が雄大を探せなかったこ
とをくやんでいる。
イ みんなが、雄大が帰ってきたとたん大騒ぎを始めたことに不
信感を持っている。
ウ おしようさんだけに雄大を探させてしまったことを少し恥ず
かしく思っている。
エ 雄大のことを心配するあまり、帰ってきたことがいまだに信
じられないでいる。

そんな騒ぎの中でも目を覚まさない雄大をベッドに横たえそつとド
アを閉めたとたん、いっせいにみんなの口が開かれた。
「雄大、どこにおったん？」
「いやあ、重かったあ—」
「元さんと親御さんに、はよう連絡せんと」
「消防のみなさん、ほんとうにお世話をかけしました。ありがとう
ございます」

40

問七 「なあなあ、おしようさん、まあ一服していってください」
そんな騒ぎを背に、ぼくは電気の消された部屋へと取って返した。
ほんとうに雄大がもどってきているか、もう一度確かめずにはいられ
なかったんだ。
*1 漆黒に黒うるしをぬったような、つややかな黒色。

「おしようさん、まあ一服していってください」
「なあなあ、おしようさん、雄大、ほんまどこにおったん？」
そんな騒ぎを背に、ぼくは電気の消された部屋へと取って返した。
ほんとうに雄大がもどってきているか、もう一度確かめずにはいられ
なかったんだ。
(八束澄子「ぼくらの山の学校」) 45

45

問八 線①「漆黒の山肌」とありますが、この山の様子をたとえ
を用いて表している部分を文中から九字で書きぬきなさい。

ことば・コトバ・言葉

1 次の線部の漢字の使い方として正しいものに○をつけなさい。

- (1) ア 時間を計る。
- イ 重さを計る。
- ウ 高さを計る。

- (2) ア すがたを表す。
- イ 正体を表す。
- ウ 気持ちを表す。

- (3) ア 身をつける。
- イ 身を結ぶ。
- ウ 身の無い話だ。

2 次の線部のかたかなを漢字で書き分けなさい。

- (1) ① まどをアける。
- ② 席をアける。
- ③ 夜がアける。

- (2) ① アツい夏。
- ② アツいお茶。

①	_____
②	_____
③	_____

3 次の線部の漢字はまちがっています。正しい漢字に直しなさい。

- (1) 借りた本は期日までに帰しましう。

- (2) 夕飯を食べ終えたら、宿題を初める。

たくさん店があるけれど、どの店のかんばんも漢字が一字ずつまちがっているよ。まちがっている字をぬき出して、正しく書き直そう。



□	□	□	□	□	□
↓	↓	↓	↓	↓	↓
□	□	□	□	□	□

第13回

奈々子に

詩

ねらい

詩の種類

詩は、用語・形式・内容によって分類することができます。

- (1) 用語
 - ① 口語詩：現在のことばで書かれた詩。
 - ② 文語詩：昔のことばで書かれた詩。
- (2) 形式
 - ① 定型詩：音数、リズムが一定の詩。
 - ② 自由詩：音数、リズムが決まっていない詩。
 - ③ 散文詩：ふつうの文章のように書かれた詩。
- (3) 内容
 - ① 叙情詩：作者の感動を中心に書かれた詩。
 - ② 叙景詩：風景を中心に書かれた詩。
 - ③ 叙事詩：できごとを中心に書かれた詩。

詩の表現

- (1) 比喩(たとえ)：別のものにとえて、イメージを伝える。
- ① 直喩：「まるで〜のようだ」などのことばを使ったたとえ。
- ② 隠喩：「まるで〜」などのことばを使わずにとえ。
- ③ ぎ人法：人でないものを人にたとえる。
- (2) 倒置法：ことばの順序を逆にして、印象を強める。
- (3) 体言止め(名詞止め)：文末を体言で止めて、余情を残す。
- (4) くり返し(反復法)：同じことばをくり返して、印象を強める。
- (5) 対句：同じリズムで、似た内容や対立する内容のことばをならべて、リズムを整え、印象を強める。
- (6) 省略：ことばを省いて余韻を残すことで、印象を強める。



漢字を書きなさい。

述

述 8 ジュツのべる

(1) キジュツシキの問題。

準

準 13 ジュン

(2) 旅行のジュンピをする。

証

証 12 ショウ

(3) 身分をショウメイする。

績

績 17 セキ

(4) セイセキが上がる。

属

属 12 ゾク

(5) 大学のフゾク病院。

留

留 10 リウ

(6) 中国のリウウガクセイ。



文章たんけん

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

奈々子

吉野 弘

赤い林檎の頬をして
眠っている 奈々子。

① お前のお母さんの頬の赤さは
そっくり

奈々子の頬にいつてしまって

② ひところのお母さんの

つややかな頬は少し青ざめた

お父さんにも ちよつと

酸っぱい思いがふえた。

唐突だが

奈々子

③ お父さんは お前に

多くを期待しないだろう。

ひとが

ほかからの期待に応えようとして

どんなに

自分を駄目にしてしまうか

お父さんは はっきり

知ってしまったから。

お父さんが

お前にあげたいものは

健康と

問一 この詩は何連から成り立っていますか。漢数字で答えなさい。

連

問二 線①「そっくり」のここでの意味と同じ意味のものを、次

のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 母親にそっくりなむすめ。

イ そっくり返った態度をとる。

ウ 彼のものまねは、本物とそっくりだ。

エ 持っていたお金をそっくり落とす。

問三 線②「ひとところのお母さんの／つややかな頬は少し青ざめ

た」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) お母さんの頬は、もともと何色だったのですか。

(2) 「少し青ざめた」とは、どんなことを表していますか。もつ

ともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア お母さんの頬が以前にも増してやせ細ったということ。

イ お母さんが一人前のりっぱな大人になったということ。

ウ お母さんがさまざまな苦勞を経験してきたということ。

エ お母さんが酸っぱいものを食べすぎてしまったということ。

問四 線③「お父さんは お前に／多くを期待しないだろう」と

ありますが、それはなぜですか。もつともよいものを次のア〜エ
から選び、記号で答えなさい。

自分を愛する心だ。

ひとが

ひとでなくなるのは

自分を愛することをやめるときだ。

自分を愛することをやめるとき

ひとは

他人を愛することをやめ

世界を見失ってしまう。

自分があるとき

他人があり

世界がある。

お父さんにも

お母さんにも

酸っぱい苦勞がふえた。

④ 苦勞は

今は

お前にあげられない。

お前にあげたいものは

香りのよい健康と

かちとるにむづかしく

はぐくむにむづかしい

自分を愛する心だ。

問五 線④「苦勞は／今は／お前にあげられない」とありますが、

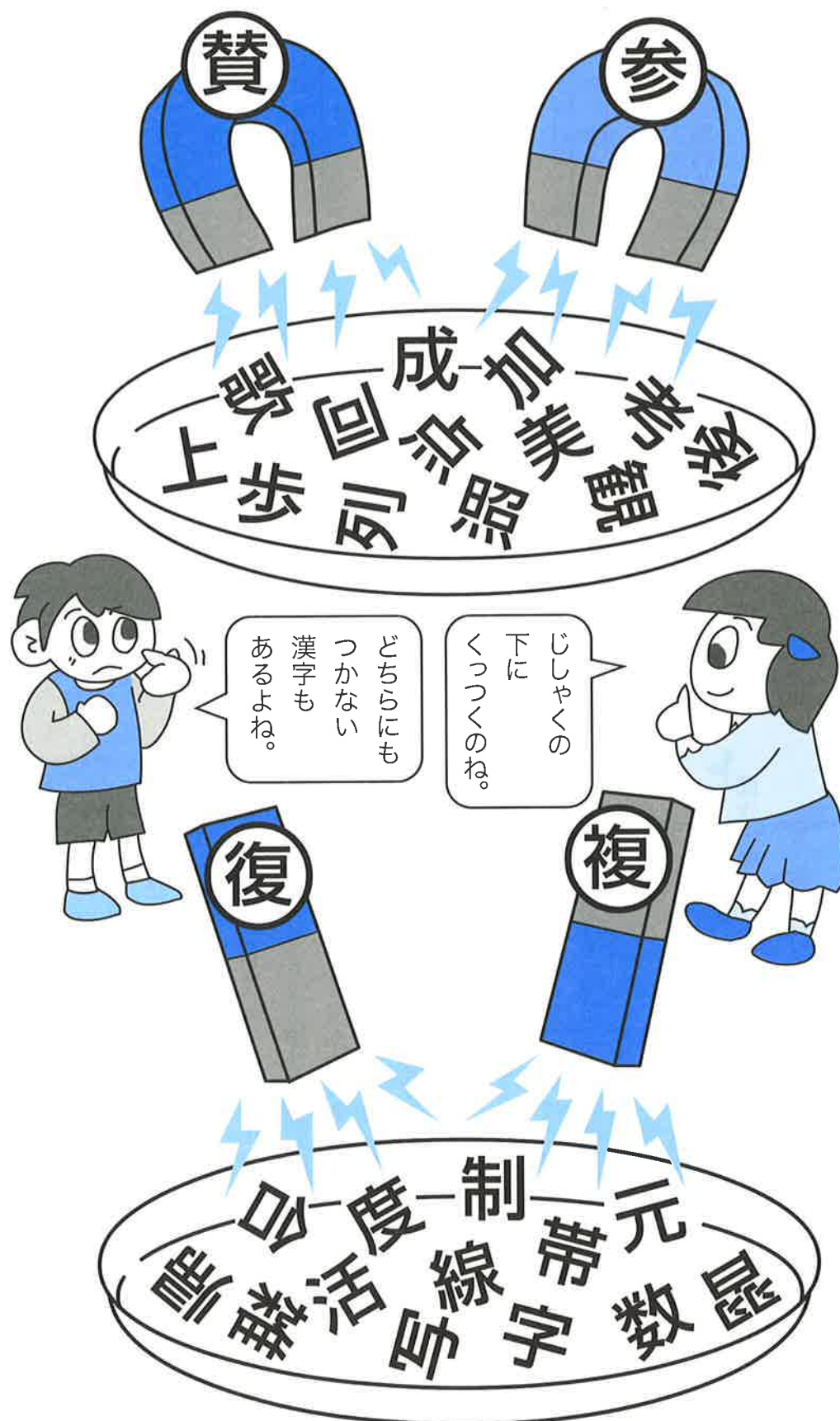
作者は、奈々子に、苦勞ではなく、何をあげたいと考えています
か。詩の中から二つ書きぬきなさい。

問六 奈々子の赤い頬は何にたとえられていますか。



漢じしゃく

二字熟語になる漢字だけをひきつけるじしゃくがあるよ。どちらのじしゃくがより多くの漢字をひきつけるかな？



どちらにもつかない漢字もあるよね。

じしゃくの下にくっつくのね。

まとめのふくしゅう
タイムテスト
(2)

月 日 得点
/100点

1 次の線部の漢字の読み方を書きなさい。(各2点)
(1) 他人の空似。
(2) 小鳥を飼う。

(3) あとは任せてくれ。
(4) こしよと塩を混ぜる。
(7) 美術部にシヨソクする。
(8) あまり意地をハるな。

3 次の線部のかたかなに合う熟語を下のあくから選び、それぞれ記号で答えなさい。(各3点)

(5) 池の周囲に花を植える。
(6) ちゃんと証人がいる。
(1) コードがカネツしてあぶない。
(2) 電子レンジでカネツする。

(7) 準決勝に進む。
(8) 敗因は練習不足だ。
(2) 地球はジテンしている。
(1) 国語ジテンで調べる。

2 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。(各2点)
(1) 本のジョブンを書く。
(2) これでかし借りなした。
(2) キコウ文を書く。
(1) おだやかなキコウの土地。

(3) テイキアツが接近中。
(4) チシキが豊かだ。
(1) コウエンで遊ぶ。
(2) コウエン会で話をきく。

(5) あいさつをノべる。
(6) ルスパンをする。
(4) コウエンが光った。
(3) 子役のコウエンが光った。

ウ イ ア
公 講 好
園 演 演

ウ イ ア
寄 紀 気
港 行 候

ウ イ ア
自 辞 次
転 典 点

ウ イ ア
過 火 加
熱 熱 熱

4 次の漢字を正しく使っているものをア〜エから選び、それぞれ記号で答えなさい。(各2点)

(1) 着く
ア よく気が着く。
イ 手紙が着く。
ウ よこれが着く。
エ 貯金の利息が着く。

(2) 代える
ア やつと家に代えることができた。
イ 予定を代えるわけにはいかない。
ウ 正気に代えるのを待とう。
エ 命に代えることはできない。

(3) 空ける
ア 年が空ける。
イ 戸を空ける。
ウ 小さなあなを空ける。
エ 新しく店を空ける。

(4) 計る
ア ストップウォッチで計る。
イ ビーカーで計る。
ウ じょうぎで計る。
エ バネばかりで計る。

5 次の漢字を組み合わせて、同音異義語を二つずつ作りなさい。(同じ漢字を二度使ってもよい)。(各完答3点)

- (1) 再 才 祭 海 会 開
- (2) 年 念 然 信 真 新
- (3) 以 意 委 害 外 街

6 次の□にあてはまる漢字を書きなさい。(各2点)

(1) タツ
① 新しい校舎が□つ。
② みんなの先頭に□つ。

(2) ハヤい
① 足が□い。
② 朝が□い。

(3) ノボる
① 山に□る。
② 石だんを□る。

7 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。(各2点)

(1) ① 世界でサイシヨウの国。
② 事故の件数は過去サイシヨウとなった。

(2) ① 五年生をタイシヨウにしている。
② タイシヨウ的な性格だ。

(3) ① サイシンのカメラを買う。
② サイシンの注意をはらう。

第14回

説明文2

古事の森(1)



ねらい

◆文章の構成

それぞれの段落の役割をとらえ、段落と段落の関係をつかむと、筆者の説明しようとしていることがはっきりします。

- (1) 話題を述べる段落
ふつう、文章の初めにあります。
- (2) 前の段落の内容と同じようなことを付け加えて述べる段落
「また」「そして」「さらに」などのつなぎことばに注意します。よく前の段落と結びついて大きな意味段落を作ります。
- (3) 前の段落の内容とは反対の内容を述べる段落
「しかし」「ところが」などのつなぎことばに注意します。
- (4) 前の段落の内容の具体例を述べる段落
「たとえば」などのつなぎことばに注意します。
- (5) 前の段落の内容をまとめ、言いかえる段落
「つまり」「要するに」などのつなぎことばに注意します。
- (6) 前の段落の内容とは別の話題の内容を述べる段落
「ところで」「さて」などのつなぎことばに注意します。文章の大きな切れ目となり、前の段落と結びつくことはありません。 ※多くの文章では、それぞれの形式段落が(1)〜(6)のような役割をもちながら前後の段落と結びついて意味段落を作り、その意味段落全体がまた前後の意味段落に対して(1)〜(6)のような役割をもつ というような複雑な関係になっています。

漢字を書こう。

採

イ 11
サイ
とる

(1) 自分でサイテンする。

招

イ 8
シヨウ
まねく

(2) 友達をシヨウタイする。

製

イ 14
セイ

(3) 機械をセイサクする。

税

イ 12
ゼイ

(4) ゼイキンをおさめる。

銅

イ 14
ドウ

(5) ドウでできた食器。

務

カ 11
ム
つとまる
つとめる

(6) ジムシヨに電話する。

P 5

- (1) 現金
- (2) 心構
- (3) 再会
- (4) 病状
- (5) 表情
- (6) 紀行
- (7) 喜
- (8) 質問

P 6

〔文章たんけん〕

- 問一 エ
- 問二 (1) それまでゆ

(2) 林間学校のしおり・持ち物の欄

(3) 洗面具・パジャマ・ウインドブレーカー・長ズボン(ジャージ)・デジカメ・ノート・マンガ

問三 熱中症にうつっていく

問四 羽後本荘から矢島までの行き方

問五 ウ

問六 午後五時過ぎから午後八時ころ。

解説

問一 「まえおき」は、本題に入る前に述べることば。今夜出かける件で電話したなどということは言わずに、「いきなり」内容を話し始めていることから、五郎おじさんの急いでいる様子がわかる。

問二 (1) 五郎おじさんからの電話を受けて秋田に行くことを実感し、出発までにそれほど時間がないことに気づいて急いで準備をしようという気持ちに切りかわったのである。

(2) 12行目「何か足りないものがあつたって、借りるってわけにはいかない」とある。林間学校のとこのように、家以外に泊まる場合に持参すべきものをしおりの「持ち物の欄」で確認しているのである。

(3) 15～24行目に翔太が荷物を用意する様子が書かれている。

P 9

- (1) 授業
- (2) 増加
- (3) 容器
- (4) 現在
- (5) 測定
- (6) 整備
- (7) 豊作
- (8) 迷

P 10

〔文章たんけん〕

問一 ずいぶん高くまで登ってきた

問二 ア 問三 エ

問四 〈五字〉息がきれる 〈十字〉はあはあと息を整える

問五 (1) 湖のふちくしている。 (2) エ

解説

問一 「雲」が自分たちの下にある景色が見られる場所はどこなところかを考える。

問二 9～11行目のお波さんの会話文からとらえる。

問三 「おいたてられる」は、ここでは、せき立てられる、せかされる、という意味。花を眺めているうちに「いつのまにか」時間がたつてしまっていたことを空と雲の様子の変化から気づき、登山の続きを急ぎ始めたのである。

問四 あとに続く二つの段落に着目する。「息がきれる」「はあはあ」は、激しい運動などでせわしく苦しそうに呼吸する様子を表している。

問五 (1) 33行目の「鳥ノ海だ。」よりあとの部分が、三人の目についた景色である。

(2) 「ただ見つけていた」という表現や、直前の一文の「口をきかず」「立ちつくしていた」から、景色に見とれている三人の様子をとらえる。

23行目の「帽子」はリュックには入れていないので、それ以外の荷物をぬき出す。

問三 暑い季節ならでは、ことばや行動の描写に着目する。

問四 直前の五郎おじさんの会話文からとらえる。

問五 「五郎おじさん、おなかつたでしょ。ぼくが一人で上野駅まで行ければ、ついてきてもらわなくてよかったんだけど」や、「今回みたいな緊急時、いちいち姉さんたちや五郎おじさんに頼らなくて、一人で列車にも乗れないんじゃないや困る」などから、他人を気づかえる優しい性格がうかがえる。

問六 1・3・32行目の時刻を表すことばに着目する。

P 8

〔漢字〕

未来

通る漢字は、時→計→画→面→会→話→題→名。

解説

P 12

〔ことば・コトバ・言葉〕

- | | | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 1 | (1) イ | (2) ウ | (3) エ | (4) ア | (5) エ | (6) ウ |
| 2 | (1) ウ | (2) ア | (3) イ | (4) ア | (5) エ | (6) ウ |
| | (7) ム | (8) ア | (9) イ | (4) ア | (5) エ | (6) ウ |
| | (5) オ | (6) 言 | (7) 王 | (8) 〃 | (9) 〃 | (10) エ |

〔漢字〕

「キ」と読む漢字を通る。通る漢字は、希→季→紀→起→期→喜→帰→氣→記→機。

P 13

- (1) 事件
- (2) 条約
- (3) 大勢
- (4) 比
- (5) 品評会
- (6) 略図
- (7) 応用
- (8) 過大

P 14

〔文章たんけん〕

1 問一 イ 問二 鳥ノ海へ行く道との分岐 問三 一目散に

問四 ビクともしない 問五 ウ

問六 (1) 幸せ (2) エ 問七 ようやく、

〔解説〕

問一 「何度も」名前を呼んでいることに着目する。また、「お波さん、お波さん、お波さん」という呼び方から、ユリアは大きな声でさけんでいると考えられる。これらの表現からユリアがお波さんを心配し、あせっている様子であることをとらえる。

問二 「そこ」は、直前の文の「ここ」が指している場所。お波さんと待ち合わせしたのはどこかをささる。

問三 「一目散に」は、わき目もふらずに走るさま。

問四 8〜9行目に、鳥ノ海近くにいるお波さんの姿が描かれている。

「ビクとも」は、わずかに動いたり揺れたりするさま。あとに「しない」と打ち消しのことばをとまなっている。まったく動かない様子であることを表している。

問五 お波さんの無事を知り、それまで心配で張りつめていたユリアの気持ちが一気にほぐれたことがこの様子からわかる。

問六 (1) 22〜24行目のお波さんの会話文から、どんな気持ちになる場所なのかをとらえる。
(2) 直後に続くお波さんの会話文に着目する。いつもはクールなユリアが取り乱した様子であった理由を「お波さんが死

じゃったのかと思った」ということばからさっさと考えられる。

問七 この文章の「」までの部分の前半は、翔太とユリアがお波さんのもとへ一目散に向かっている場面、後半はお波さんのもとにたどり着いた場面、に分けられる。

P 16

〔ことば・コトバ・言葉〕

1 (1) イ (2) ウ (3) カ (4) ア (5) イ (6) エ (7) ウ (8) キ (9) ア

〔解説〕

それぞれの部首の名前は、次のとおり。

- (1) 「おのづくり」 (2) 「くにがまえ」 (3) 「しかばね」
- (4) 「しょくへん」 (5) 「さんづくり」 (6) 「くさかんむり」
- (7) 「ぎょうがまえ」 (8) 「しんにょう」 (9) 「ふねへん」

2 (1) 頁・おおがい (2) 𠂔・はつがしら (3) 𠂔・れんが

(4) 𠂔・あなかんむり (5) 𠂔・のぎへん (6) 𠂔・しめすへん

(7) 門・もんがまえ (8) 𠂔・りっしんべん

(9) イ・ぎょうにんべん (10) 𠂔・こざとへん (11) 欠・あくび

(12) 一・なべぶた

〔借り物ができない人〕 ④

〈できた漢字〉 省・拳・産・各・老

4 友だちいないと不安だ症候群につける薬 (1)

P 17

- (1) 確実
- (2) 性質
- (3) 適温
- (4) 指導
- (5) 容易
- (6) 利益
- (7) 個室
- (8) 災害

P 18

〔文章たんけん〕

1 問一 A 問二 ゆるい友だち関係

問三 高め合うような友だち関係 問四 ④ 問五 エ

問六 ゆるやかなつきあい 問七 イ

〔解説〕

問一 まず言いたいことを述べて、あとに続く文でくわしく説明している。

問二 ①段落で示された「友情」に対して、②段落では現代的な友だち関係が示されている。その現代的な関係を持ちよう的に表すことばは「ゆるい友だち関係」か「浅く広い関係性」だが、字数に合うのは前者。

問三 「ゆるい友だち関係」と対照的な友だち関係のあり方。「友情」に関する内容なので、①段落の中からさがせばよい。

問四 ④段落のはじめに、「メールが来ないと不安になったりします。メール依存症に近いものです」「友だちとつながっていない状況、連絡が来ない状況が三日も続くと、不安で頭がおかしくなりそうになるのです」と書かれています。

問五 ④段落前半で述べられた不安は、かつてはなかったものである。

問六 ⑤段落の——線④より前の部分に着目する。

問七 ①〜④段落をまとめる段落であることも考える。

P 20

ア しょしんわするべからず

イ いしのうえにもさんねん

ウ わらうかどにはふくきたる

エ ひやくぶんはいっけんにしかず

オ まてばかいろのひよりあり

〔解説〕

それぞれの意味は、次のとおり。

ア 物事を始めたころの気持ちを忘れてはいけない。

イ 何事もがまん強くやればなんとかなるものだ。

ウ 家族の仲がよく、いつも笑っている家には、幸運がめぐってくる。

エ 他人の話を何回も聞くよりも、実際に自分の目で確かめたほうがよくわかる。

オ 根気よく待てば、そのうちにいいこともある。

5 友だちいないと不安だ症候群につける薬 (2)

P 21

- (6) (1) 確率 (2) 態度 (3) 物価 (4) 近眼 (5) 久
 (7) 賛成 (8) 支店

P 22

〔文章たんけん〕

- 1 問一 友だち・不安 問二 ですから、
 問三 ベートーベン・村上春樹 問四 エ 問五 孤独の力
 問六 イ 問七 意識がぎゅっと凝縮していきま
 問八 四面楚歌・原点・一つの世界

解説

- 問一 ①段落のキーワードをとらえる。
 問二 ①段落の最後の文の「ですから」に注目。それまで述べたこと
 から導き出せる結論を述べる文であることがわかる。
 問三 ①の次の文の「そうすると」のあとに「例えば」という
 ことばをおぎなってみるとわかりやすい。
 問四 ②段落の話題は「自分の世界を持つこと」だが、それにとどま
 っていない。二つの「……ができるのです」に注目する。
 問五 「四面楚歌」が、友だちがいなくなつて自分の世界に意識が向
 いたときに、孤独のエネルギーによって世界が深まるものだと
 らえた上で、そうした力を言いかえたことばをさがす。
 問六 四面楚歌の状況をポジティブにとらえた考え方があてはまる。
 ④四面楚歌の状況になれる自分と考えることで強くなれる、とい
 うことである。
 問七 直後の文に「そうした孤独の力を持っているほうが世界が深ま
 る」とある。これと同じ内容が31〜32行目にあることに着目する。
 問八 内容的には、②段落からの流れを受けて、まとめている段落。

6 友だちいないと不安だ症候群につける薬 (3)

P 25

- (6) (1) 永住 (2) 救 (3) 提出 (4) 貧 (5) 回復
 (6) 暴力

P 26

〔文章たんけん〕

- 1 問一 孤独力 問二 ひとりの時間を楽しむ方法
 問三 ② イ ③ エ 問四 エ
 問五 自分の世界を閉じた状態
 問六 エ 問七 友だち力・距離感・コントロール

解説

- 問一 ①段落のキーワードをとらえる。
 問二 ②段落では、①段落で示された「孤独の時間を意義あるものに
 する」ということに関して、「ひとりでいる時に充分楽しめる『何
 か』を持っている」ことの必要性を述べ、その「何か」の例を挙
 げている。「何か」を表す十二字のことばをさがせばよい。
 問三 「修行」は、①段落の「孤独の時間」というものを、もっと積極的
 に意義あるものにする「や」②段落の「ひとりの時間を楽しむ」と
 同じ姿勢である。
 問四 同じ段落に「孤独のほうが楽な場合もある」とある。
 問五 「引きこもりに近い状態」をいろいろなことばで説明しているの
 で、その中で字数に合う部分を探すがす。
 問六 ④段落は、⑤段落の結論に向けて、無理して友だちを作る必要
 はなく、それぞれの時期に見合った友だちづきあいがあるとい
 うことを述べている段落である。
 問七 段落の最初にある「友だち力というのは」が、この段落のテー
 マを示している。

P 24

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (1) ちりもつもれば——山となる (2) 急がば——まわれ
 (3) おぼれる者は——わらをもつかむ
 2 (1) たか (2) えん (3) さび
 3 (1) ウ (2) イ (3) ア

解説

慣用句。腹が立つ・目が回る・首が回らない・耳にたこができる・
 足がぼろになる・口をすっぱくする・かたで風を切る。

P 28

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (1) イ (2) ア (3) ウ
 2 (1) 手 (2) 耳 (3) 口 (4) 歯
 3 (1) ア (2) イ

解説

(例1)「読みたい本が図書室に少ない」という人が多いので、①の案が
 いいと思う。
 (例2)「何を読んだらよいかわからない」という人もいるので、②の案
 がいいと思う。
 (例3)「図書室に行く時間がない」という人のために、③の案がいいと
 思う。

- (1) 寄付
- (2) 正義
- (3) 限度
- (4) 雑草
- (5) 手術
- (6) 団体

〔文章たんけん〕

1 問一 哲にパンをあげることができるのは、今日が最後だから。

問二 ぼくは、なんとも深呼吸をした。

問三 (1) 対等 (2) 同情 問四 ウ

問五 哲を友だ(く)でいた。 問六 もらった 問七 イ

〔解説〕

問一 哲が「みなさん、最後のカンパです」と言っていることから考
える。

問二 「なんども」ということばから、「ぼく」がかなりきんちようし
ていることがわかる。

問三 (1)は哲のことば、(2)は宮本さんのことばの中にある。

問四 同情されるような状況ようがうれしいはずがない。

問五 哲にパンをあげるといことは、哲より上に立つということだ
ある。自分の中にそんな気持ちがあったことに気づいたのである。

問六 問三参照。哲は宮本さんや青木君あおきに対して、「ぼく」に対すると
きとはちがう態度をとっている。

問七 「類るい、電話よ、女の子から」というママの声に「トゲ」があるこ
とや、「友だちは、これからいっばい、できるわ」ということばか
ら、ママが「ぼく」の友だちとのつきあいを好ましく思っていな
いことがわかる。

〔ことば・コトバ・言葉〕

1 ウ

〔解説〕

アは、「調べる」という意味。イは、「世話をする」という意味。

(1) ① ウ ② イ ③ ア

(2) ① ウ ② エ ③ イ ④ ア

〔足〕

〔解説〕

右上…「動物のどう体の下部から左右に分かれてのびている部分」の意
味。

左上…「台を支える部分」の意味。

右下…「足が出る」という慣用句かんようくで、「出費が予算をこえて、損そんをする」
という意味。「足を出す」ともいう。

左下…「交通機関」の意味。

タイムテスト (1)

1 (1) ぼうふうう (2) と (3) みちび (4) ていあん

(5) ひき (6) いきお (7) じょうたい (8) こうえん

2 (1) 物質 (2) 制限 (3) 確 (4) 条件 (5) 寄

(6) 復習 (7) 現 (8) 増

3 (1) ウ・計 (2) エ・晴 (3) ア・鳥 (4) イ・下

れんが (別解) れっか・エ (2) おおさと・ウ

4 (1) りっしんべん・ア

(4) しんによう (別解) しんにゆう・イ

5 (1) やまいだれ・カ (6) ごんべん・オ

(2) 百 (2) 千 (3) 三 (4) 七

〔解説〕

(1) おさないころの性質は大人になっても変わらない。

(2) 悪いことはすぐに知れわたる。

(3) 三人も集まればよい知恵ちえがうかぶ。

(4) どんな人でも少しはくせがある。

(1) イ (2) ウ (3) ア

(1) イ (2) エ (3) ア (4) ウ

(1) あるきまわる (2) あおぞら (3) おりがみ

(2) イ (3) ア

P 43

- (1) 桜
- (2) 告
- (3) 順序
- (4) 責
- (5) 主張
- (6) 複雑

P 44

〔文章たんけん〕

- 1 問一 ア 問二 居眠り運転・眠気覚まし
- 問三 (1) ウ (2) センターの赤 問四 エ
- 問五 壮太の到着がうれしくてしかたない気持ち。
- 問六 イ

解説

問一 車の運転中、眠そうにして「一分おきにあくびをし」ている父さんの様子に、気がでない壮太の気持ちをとらえる。「ひやひや」は、心配しおそれるさま。

問二 「話題」とは、ここでは「ウルトラマン」や「サイ」についての話。あれこれ話しかけて父さんの気を引き、居眠りをしないようにしている。

問三 (1) 直後の一文の「あとひとつ、あとひとつトンネルをぬけると、みんなに会える」という表現から、センターのみんなに早く会いたい気持ちがわかる。「気持ちがはやる」とは、早く早くと気持ちがあせること。

問四 続く段落に「久しぶりに会うと、なんだか照れくさい」「そっけなく答えた」とあることに着目する。

問五 壮太が乗ってきた車や壮太本人にまわりつく様子から、たく

P 47

- (1) 囲
- (2) 意識
- (3) 貸
- (4) 毒
- (5) 責任
- (6) 綿毛

P 48

〔文章たんけん〕

- 1 問一 ウ 問二 イ 問三 ア 問四 ウ
- 問五 こわごわ 問六 エ 問七 エ
- 問八 懐中電灯くんでいる

解説

問一 スポーツの試合や何かの大会などで金メダルを取ったときの気持ちを考えてみる。「みんなの前にお礼をかざし」で見せている様子からも開くんのほこらしい気持ちがわかる。

問二 「武者ぶるい」とは、戦いや重大な場面に臨んで、興奮や緊張で体がふるえること。

問三 「団子状態」とは、ここでは、多くのものがひとかたまりになった状態のこと。肝試しに行くのがこわい三人は、おたがいにくっついてひとまとまりになっているのである。

問四 こわい気持ちを、歌を歌うことでまぎらわそうと思ったと考えられる。28行目に「歌ってるうちに森の暗さも気にならなくなってきた」とあることにも着目する。

問五 「おそろおそろ」も「こわごわ」も、おそろしく思いながらひどく緊張してものごとをするさま。

問六 「足がすくむ」は、恐怖や緊張で足がこわばり自由に動けないさま。

問七 「大丈夫」と言いながらも、ことはをつまらせてしまっている様子から、本当はこわいの強がって見せているばかり(壮太)の気

との壮太に会えてうれしくてしかたない気持ちをとらえる。

問六 久しぶりにセンターのみんなに会って初めは照れくさかったが、キャンプの準備をするうちにいつもの関係にもどり、ぎこちなさが消えていった壮太の気持ちの変化を読み取る。

P 46

替 (足りない鳥) とび (とんび)

- ① つる
- ② からす
- ③ すずめ
- ④ とび(とんび)
- ⑤ たか
- ⑥ きじ
- ⑦ はと

持ちをとらえる。

問八 初めは懐中電灯が照らす「浮かび上がる木のシルエットがガイコツみたい」に見えてこわかったのが、やがて懐中電灯の明かりの動きが「楽しそうなりズムを刻んでいる」ように見えてきたことから、気持ちの変化がうかがえる。

P 50

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (1) 好意・校医 (2) 解放・開放 (3) 協力・強力
- 2 (1) ア (2) イ (3) イ
- 3 (1) 汽車 (2) 記者

替 千変万化 三寒四温 弱肉強食 一石二鳥 有名無実 日進月歩

解説

それぞれの意味は次のとおり。

- 千変万化 さまざまに変化すること。
- 三寒四温 寒い日が三日くらい続くとそのあと四日くらいはあたたかい日が続くことをくり返す気候のこと。
- 弱肉強食 強い者が弱い者をたおして栄えること。
- 一石二鳥 一つのことによって二つの利益を得ること。
- 有名無実 名ばかりで実力がともなわないこと。
- 日進月歩 ますます進歩すること。

P 51

- (6) (1) 圧力 (2) 原因 (3) 仮面 (4) 混雑 (5) 飼育
- (6) 似顔絵

P 52

〔文章たんけん〕

- 1 問一 真っ黒な巨人みたい
- 問二 ア
- 問三 (1) ア (2) エ
- 問四 ア・イ
- 問五 ウ
- 問六 エ

解説

問一 暗さや大きさ、不気味さなどを感じさせるたとえである。
 問二 「爪が食いこむ」ほどにこぶしが強く固く握られていたことがわかる。無意識のうちに体に入り、強く握ってしまっている状態の気持ちも合わせてとらえる。
 問三 壮太は雄大のことが心配でちゃんと眠れていない状況ようだったことをおさえる。玄関が開けられる「ひっそりとした音」にも敏感に反応していることから、雄大に何事があったのではないかと、とても落ち着いてはいられないでいる心情をとらえる。
 問四 「けものがほえるような」声をあげたり「顔を真っ赤にし」たりする様子には、雄大が見つかっておさえきれない喜びと興奮が読み取れる。
 問五 雄大が見つかってほっとした気持ちや、無事に見つかった状況の細かい様子などを知りたいみんなの気持ちが一気にあふれ出している。

P 54

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (1) ア (2) ウ (3) ア
 - 2 (1) ① 開 (2) ② 空 (3) ③ 明
 - 3 (1) ① 返 (2) ② 暑 (3) ③ 熱
- 学(↓)楽 働(↓)動 課(↓)果 道(↓)動 工(↓)光 機(↓)器

問六 最後の段落に着目する。

P 55

- (6) (1) 記述式 (2) 準備 (3) 証明 (4) 成績 (5) 付属
- (6) 留学生

P 56

〔文章たんけん〕

- 1 問一 十(連)
- 問二 エ
- 問三 (1) 赤 (2) ウ
- 問四 ウ
- 問五 (香りのよい)健康・自分を愛する心
- 問六 林檎

解説

問二 「全部」という意味。
 問三 (2) 直後に「お父さんにも ちよつと／酸っぱい思いがふえた。」とある。
 問五 第四連と第十連に書かれている。
 問六 隠ゆである。

P 58

〔文章たんけん〕

- (上) 参が多い。 (下) 復が多い。
- 〔参〕は、考・観・照・列・上・加をひきつける。
- 〔賛〕は、同・成・美・歌をひきつける。
- 〔復〕は、数・線・写・合・雑をひきつける。
- 〔復〕は、元・習・活・帰をひきつける。

P 59

- 1 (1) そらに (2) か (3) まか (4) ま (5) しゅうい
 (6) しょうにん (7) じゅんけつしょう (8) はいいん
 (1) 序文 (2) 貸 (3) 低気圧 (4) 知識 (5) 述
 (6) 留守番 (7) 所属 (8) 張

- 2 (1) ① ウ (2) ② ア (3) ① イ (4) ② ウ
 (3) ① イ (2) ② ア (4) ① ウ (2) イ (3) ア
 (1) ① エ (2) エ (3) ウ (4) ア

解説

- (1) ア・ウ・エは「付く」。
 (2) アは「帰る」、イは「変える」、ウは「返る」。
 (3) アは「明ける」、イ・エは「開ける」。
 (4) イ・エは「量る」、ウは「測る」。
 (1) 再会・再開 (2) 新年・信念 (3) 以外・意外
 (1) ① 建 (2) 立 (2) ① 速 (2) ② 早
 (3) ① 登 (2) 上
 (1) ① 最小 (2) 最少 (2) ① 対象 (2) ② 対照
 (3) ① 最新 (2) ② 細心

7 6 5

P 61

- (1) 採点 (2) 招待 (3) 製作 (4) 税金 (5) 銅
 (6) 事務所

P 62
 [文章たんけん]

- 1 問一 問二 ぜんたいとして木の力がそろっている(こと)。
 問三 〈山の中腹より上〉 くせがあるかわりに芯が強い・柱など建物を
 ささえるところ
 〈谷〉 雨風にさらされない・化粧板
 問四 くせが生きるように組み合わせつつかう。
 問五 修理・大きな木・木を知りつくした 問六 イ

解説

- 問一 ①段落で提示した話題を②③④段落で具体的に説明し、再度⑤段落でまとめていく。
 問二 ①線の教えについては、③・④段落で説明されている。
 問三 中腹より上で育った木については⑨段落、谷で育った木については⑩段落で説明されている。
 問四 ⑧段落の「右によじれる木と、左によじれる木を組み合わせつつかう。そうするとおたがいのくせがかえって生きてきて、建物を強くささえることができる」に着目する。
 問五 ⑭・⑮段落で、筆者の考えが述べられている。
 問六 問一・問五の解説参照。①の話題について、三つの具体例を挙げ、最後に筆者の考えを述べている。

P 64

13本

□の中にくいつ「き」という文字が使われているかを数える。

き	き	い	っ	ぱ	つ	き	き	ゆ	う	ろ	お
き	き	み	み	や	く	ら	く	も	ゆ	ぼ	え
せ	き	ん	す	い	き	ん	え	ゆ	き	い	き
き	つ	い				ん		う	き	ゆ	き
み	つ	ん						し	き	う	き
や	つ	で	が	け	と	ほ	が	ぬ	き	し	き
し	つ								き	う	き
ん	か	う	ろ	ん	き	ご	う	み	ご	き	い